

感染症救急搬送サーベイランスの概要について

事業の目的

都民の生命を脅かす健康危機

- 新興・再興感染症の流行
 - ・ 高病原性鳥インフルエンザの世界的な流行
 - ・ 新型インフルエンザ発生の脅威

健康危機管理体制の強化の必要性

救急搬送サーベイランスの実施

福祉保健局、東京消防庁、医療機関、保健所が連携し、感染症危機管理の新たな仕組みを構築

救急搬送時における患者の症状等の情報を迅速に収集・解析することにより、異常な発生を探知

感染症法等に基づく迅速な対応

救急隊員、医療従事者の安全確保

- 都民への被害の広がりを最小限に抑える

東京2020大会を見据えて

大会においては、感染症の持ち込みや急速な拡大が危惧されるため、大会に向けサーベイランスのより一層の活用を図っていく。

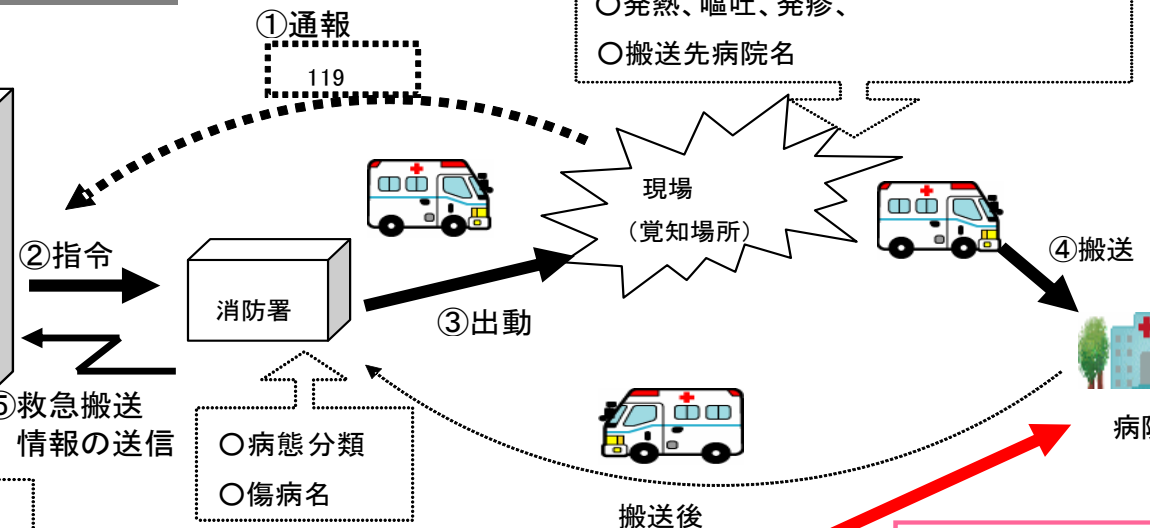
事業実施方法

感染症救急搬送サーベイランスの仕組み（イメージ）

○東京消防庁と連携し、救急搬送情報を迅速に収集・解析 ⇒

新興感染症等の発生をいち早く探知

東京消防庁 救急搬送情報



発生年月日と時間
○覚知場所（丁目住所）

健康安全研究センター健康危機管理情報課・都感染症対策課

⑨異常探知情報の提供

⑩必要に応じて調査

所内 地域報を収集
感染症の発生を検討

⑪報告

⑥救急搬送情報の送信

健康安全研究センター

⑧協議

⑦分析

救急搬送
サーベイランスシステム

⑫報告

感染症対策課

※ 赤色の網掛け部分は、システムにおいて異常探知後の対応

運用経過

